

よく遊び じっくり学び 正しく選ぶ 子



緑小だより 1月号

令和7年1月7日(火)

茅ヶ崎市立緑が浜小学校
校長 菅野 康一

【乙巳(きのと・み)】

新年、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。今年の干支は『**巳**』。(私も巳年で年男です!) 2025年は、60年に一度の、十干の「**乙(きのと)**」と十二支の「**巳(み)**」が組み合わせさった「**乙巳(きのと・み)**」で、この年は、多くの人にとって成長と結実の時期となる可能性が高いそうです。「乙(きのと)」は未だ発展途上の状態を表し、「巳(み)」は植物が最大限まで成長した状態を意味します。早い人では、さっそく具体的な成果が現れ始め、中には大きな結果を手にする人もいるでしょう。しかし、すべての人が同じペースで結果を得られるわけではありません。成長の速度は人それぞれであり、中には時間がかかる人もいます。そのため、2025年は辛抱強さが試される年にもなります。すぐに結果が出なくても、焦らず粘り強く取り組む姿勢が重要です。自分のペースを保ちながら着実に前進することで、最終的には望む結果に近づくことができます。緑が浜小学校の一年間も、子どもたち一人ひとりが粘り強く物事に取り組む姿勢を大切にしていってほしいと思います。

さて後期後半開始の全校集会で、「**一月往ゆる二月逃げる三月去る**」の慣用句から『**一月は行く、二月は逃げる、三月は去る**』ということを毎回お話しています。これは、正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを表現しています。一月の年始というものは誰にとっても忙しいもので、1日の元日から始まって初詣、年始参り、七草がゆ、鏡開き、小正月などの年始行事が続き、登校日も少ない事から、今年も1ヶ月あっという間に過ぎたと感じます。二月は他の月に比べ、日数が少ないのが特徴で(今年は28日)、節分、立春、建国記念日、天皇誕生日などがあり、一年で最も短い月なので、逃げる様に二月は終わってしまうと表現されます。そして、三月はひな祭り、彼岸、春分などがある一方で、卒業や移動が多く忙しい月で、気がつくとも四月!とならないよう、6年生は49日間、5年生は52日間、1~4年生は51日間を「**いかさず・にがさず・さらせず**」しっかりとつかまえられるよう、職員一同改めて気を引き締め、子どもたちと取り組みます!